

1897年に、

「時代にはその芸術を、
芸術にはその自由を」とい
う有名なモットーを掲げて

ウィーン分離派(正式名称・

オーストリア造形芸術家協会)が結

成されました。芸術・デザインの刷新を求める
彼らが重視した活動が、展覧会活動と機関誌

『ヴェルサクルム(聖なる巻)』の刊行です。

本章では、各展覧会のカタログと

『ヴェル・サクルム』の紹介を通して、ウィーン分

離派の根幹をなす活動を概観するととも

に、分離派の中心人物であるグスタフ・

クリムトやその後継者であるエゴ

ン・シーレとオスカー・コニシュ

カの素描作品を紹介
します。



グスタフ・クリムト(医学)
1899-1907年
(第二次世界大戦
中に焼失)

1897年の

ウィーン分離派結成から

1914年の第一次世界大戦勃

発まで、世紀末から

二十世紀初頭のウィー

ンでは、グスタフ・クリ

ムトやヨーゼフ・ホフマン

らを中心

に、新しい時代に

相応しい芸術が模

索され、絵画、彫刻、

建築をはじめ数多く

の素晴らしい作品が

生まれました。中でも

グラフィックの分野は、印

刷技術の発展や雑誌メディアの

隆盛を背景にめざましく発展し、新しい芸術の動向を人々に伝え、

社会に浸透させる上でも重要な役割を担いました。

本展は、アパレル会社の創業者・平明陽氏が蒐集し、現在は京都国立近代

美術館所蔵となっている膨大なグラフィック作品のコレクションを中心に、同じく

平明氏旧蔵のリヒャルト・ルクシュによる石膏彫像と貴重なアドルフ・ロースの家具一式を加え、

世紀末ウィーンの息吹と魅力をお伝えします。

II

新しい デザインの探求 The Quest for New Design

カラー印刷技術や写真製版技術の発展を
背景に、当時、デザイン刷新の参考とすべ
数多くの図案集が刊行されました。

中でもカール・オットー・チエシュ

カや「ロマン・モーザー」が製作に

参加した『ディ・クヴェレ泉』

シリーズやベルトルト・レフラーに

よる『ディ・フレッヒエ(平面)』で提案され

案は、今なお新鮮さを失っていないせん。本章

魅了した図案集の数々を紹介するとともに

イナターの人材輩出の場としてのウィーン

活動の場としてのウィーン工房に注目しま

に建築家たちの新たな取り組みを、オット

ヴァーグナー、ヨーゼフ・ホフマンをして

アドルフ・ロースの作品に探ります。

MoMAK Collection
Graphics in
Vienna
around



1



2



3



4



5



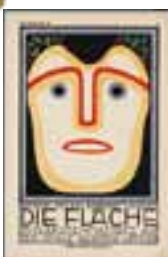
6



7



8



9



10